

**[RPS-24] 医学生の発表セッション (3)**  
外科学全般

2025 年 4 月 12 日 (土) 9:45-11:00

ポスター会場 ブース P | 仙台国際センター (展示棟) 1F 会議室 3

司会: 塩崎 敦 (京都府立医科大学消化器外科)

**RPS-24-15****橋本脳症を合併した甲状腺乳頭癌に対してステロイド治療および甲状腺全摘術を施行した一例**演者: 内海 智玖<sup>1</sup>、山下 智<sup>2</sup>、丹羽 隆善<sup>3</sup>、金子 なるみ<sup>1</sup>、堀添 恵<sup>1</sup>、林 香菜子<sup>2</sup>、森園 亜里紗<sup>2</sup>、笹原 麻子<sup>2</sup>、佐藤 綾花<sup>2</sup>、田辺 真彦<sup>2</sup>

1: 東京大学医学部医学科、2: 東京大学胃食道・乳腺内分泌外科、3: 東京大学医学部附属病院乳腺内分泌外科 獨協医科大学埼玉医療センター乳腺科

**【目的】**

橋本脳症は慢性甲状腺炎（橋本病）に伴う非常に稀な自己免疫性脳症である。甲状腺乳頭癌に併発した症例は調べた限りでは報告がなく、極めて稀な症例の可能性があり報告する。

**【症例】**

54 歳女性。亜急性経過の意識障害・抑うつ傾向・入院 1 週間前からの自傷行為（ひっかけ）・不眠・徘徊・発語減少をみとめ、当院神経内科に緊急入院した。甲状腺機能は正常、コルチゾール・ACTH は正常範囲、梅毒、HIV も陰性、頭部 CT で器質性病変はなく、頭部 MRI では DWI および T2/FLAIR で異常高信号もなかった。髄液所見でも感染・炎症を疑う所見はなかった。抗 Tg 抗体（+；1560 IU/mL）、抗 TPO 抗体（+；93.2 IU/mL）のため橋本脳症を考慮し、ステロイドパルス療法（mPSL 1000mg、8 日間隔で 3 回）を行った。ステロイドに良く反応し、MoCA-J 30/30、発話量の増加と反応速度の改善を認めた。甲状腺エコーでは甲状腺両葉の瀰漫性石灰化および右頸部リンパ節石灰化が指摘され、diffuse sclerosing papillary carcinoma と頸部リンパ節転移が疑われた。FNA では class IV の所見であり、手術目的に当科紹介となった。甲状腺乳頭癌の根治、および甲状腺自己抗体のコントロールを目的とし甲状腺全摘および右外側リンパ節郭清を行った。術後経過は良好で、術後 4 日で退院となった。リンパ節転移は計 2/42 であった。甲状腺全摘検体は 56x40x10mm。病理組織診断において、右葉に 3mm 大、左葉に 1mm 未満の乳頭癌が認められた。現在まで無再発生存中である。抗 Tg 抗体、抗 TPO 抗体は、術後 3 か月の時点でそれぞれ 318 IU/mL、6.5 IU/mL を呈し、脳症の再燃を疑う精神・神経症状はみられていない。

**【結論】**

橋本脳症を合併した甲状腺乳頭癌に対して、ステロイド治療および甲状腺全摘術を実施した。術後経口ステロイドの補充なく、精神・神経症状再燃も見られなかった。